

東洋療法いいわて

会報第 49 号

平成 29 年 5 月 10 日

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

《写真コーナー》



平成 28 年度総会(5 月 8 日)



第 1 回生涯研修会(6 月 5 日)



第 1 回生涯研修会(6 月 5 日)



東鍼連青森大会学術発表(7 月 2 日)

佐々木 実氏(中央)



健康保持のための研修会(9 月 11 日)



健康保持のための研修会(9 月 11 日)

芝山 豊和先生



鍼灸マッサージ県民公開セミナー
(8月7日)



鍼灸マッサージ県民公開セミナー
(8月7日)



障害者国体ボランティア(10月23日)



障害者国体ボランティア(10月23日)



東鍼連岩手交流会(10月29日)



障害者国体ボランティア感謝状



県知事の感謝状を囲んで(1月8日)

巻頭言



一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実

早いもので平成 28 年度も残り 2 週間余りとなりました。今年度の岩手県師会を振り返ると、まず希望郷いわて国体、全国第 16 回身体障害者スポーツ大会コンディショニンググループの担当ということになるでしょう。

「一生に一度！協力しよう！」を合言葉に昨年度から県の要請の下準備を進めて参りましたが、いよいよその日がやって来ました。（一社）岩手県鍼灸師会が無理と返上した雫石町でのアーチェリーも加え当会では三カ所（他に盛岡、奥州）で実施し、選手やコーチのケアをし、とても喜ばれました。

それから 8 月の「鍼灸の日」にちなんで今年度から「多くの人たちに鍼灸マッサージの良さを知ってもらおう！施術を受ける際は、国家資格免許を持った治療院で！」をテーマに「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2016」を開催。大反響でした。

さらに、国体の終わった 10 月末には東鍼連岩手交流会が行われ、世界遺産平泉や日本百景 猊鼻溪舟下りで盛り上がりました。

また、第 2 回から 33 年も続けて行っている一関国際ハーフマラソンボランティア、4 年目を迎えた釜石小川地区仮設住宅入居者への施術、各支部での老人施設慰問ボランティアと、皆さんの協力で昨年以上に活発な活動が出来ました。心より感謝申し上げます。

とても嬉しいニュースもありました。小澤信男前副理事長が厚生労働大臣表彰、千葉謙一前監事が全鍼師会会長賞を受賞されました。中でも小澤さんにとっては、理事退任後も県師会の行事に欠かすことなくご参加いただき、若い人たちの模範となっております。お二人とも本当におめでとうございます。

反面 8 月には、観測史上初めて三陸に上陸した台風 10 号が、東日本大震災で傷つけられた沿岸部を来襲。上館会員が 2 階まで浸水するという被害を受けました。彼は今、内陸に引っ越し再起を図っています。応援していきたいと思えます。

ここに平成 28 年度の記録「東洋療法いわて一会報第 49 号」をお届けいたします。今回も広報部長らの尽力で、活字、点字、テープ、メールと四つの媒体で発行がかないました。

言葉には言霊が宿ると言われます。たとえ報告文であっても、そこにはその人の考えや感情が表現されています。今年は例年よりも多くの人に執筆をお願いしました。平成 28 年度岩手県師会会員の思いや叫びをどうぞご覧ください。

目次

写真コーナー

巻頭言	会長 佐々木 実 . . .	1
小澤信夫さん厚生労働大臣賞、 千葉謙一さん全鍼師会会長賞に輝く！	会長 佐々木 実 . . .	3
平成 28 年度活動報告		
総務部報告		
平成 28 年度庶務日誌	総務部長 古館 吉弘 . . .	3
平成 28 年度定時総会報告	総務部等 古館 吉弘 . . .	4
会長会務報告	会長 佐々木 実 . . .	7
全鍼代議員総会等報告		
全国都道府県師会会長会議報告		
東鍼連師会長会議報告		
学術部報告	学術部長 佐藤 明 . . .	12
事業部報告	事業部長 舘下 正則 . . .	15
保険部報告	保険部長 袖林 広正法 . . .	17
組織強化部報告	組織強化部長 佐藤 茂 . . .	17
介護予防推進委員会報告	委員長 古水 健吾 . . .	18
東洋療法推進大会 IN 東京報告	会長 佐々木 実 . . .	19
東鍼連学術大会青森大会報告	学術部長 佐藤 明 . . .	20
東鍼連青森大会に参加して	盛岡支部 村上 哲也 . . .	21
県民公開セミナーで感じたこと	二戸支部 野月平 優子 . . .	22
東鍼連岩手交流会へ参加して	遠野支部 佐々木 忠久 . . .	22
希望郷いわて国体コンディショニンググループに参加して—1	盛岡支部 米澤 真奈美 . . .	23
希望郷いわて国体コンディショニンググループに参加して—2	奥州支部 千葉 芳夫 . . .	24
希望郷いわて大会の開会式を観覧して	会長 佐々木 実 . . .	25
東鍼連臨床発表「片頭痛」	会長 佐々木 実 . . .	26
東鍼連交流会臨床発表「鍼による解毒療法」	組織強化部長 佐藤 茂 . . .	26
一関支部 100 周年記念式典報告	支部長 舘下 正則 . . .	28
各支部活動報告 各支部長		
二戸支部	広報担当 古館 吉弘 . . .	29
盛岡支部	支部長 佐藤 明 . . .	29
奥州支部	支部長 千田 節雄 . . .	30
一関支部	支部長 舘下 正則 . . .	31
大船渡支部	支部長 古水 健吾 . . .	31
遠野支部	支部長 佐々木 きみ子 . . .	31
編集後記	広報部長 松下 優子 . . .	32
奥付		

小澤信男さん厚生労働大臣賞、千葉謙一さん全鍼師会会長賞に輝く！

会長 佐々木 実

平成 28 年 12 月、前副理事長の小澤信男さんが自立更生の部で厚生労働大臣賞を受賞されました。

小澤さんは二十歳を過ぎてからの中途失明者で、当時は既に結婚されておりました。新妻（トヨ子さん）を実家に残して岩手県立盲学校に入学。自分より若い人たちとの寄宿舎生活、点字習得と困難なことばかりだったと思います。

しかし、小澤さんはその性格からも伺えるように実直で何事にも一生懸命な人です。点字をマスターし、鍼灸マッサージの免許を取得され、地元金ヶ崎町で開業されました。

生業の傍ら（社）岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会や（社福）岩手県視覚障害者福祉協会の理事を長年務められ、視覚障害者の職業の充実と社会参加に大きく貢献されました。

また、鍼灸マッサージ業界においては、連合体であった県内の組織を法人化すべく尽力されました。

地域にあっては、毎年老人ホーム等でのマッサージの奉仕活動、東日本大震災時には避難所での奉仕活動に力を注がれました。優しく温かい小澤さんの人柄は、みんなに慕われ、業界人としての模範とされております。

また、小澤さんの受賞をさかのぼること三ヶ月、長年岩手県師会の監事を務められた千葉謙一さんが全日本鍼灸マッサージ師会会長表彰を受けられました。

千葉さんは、当会の理事を長年務められた後、社団法人から一般社団法人への法人移行期に監事に就任されました。新しい法人における監査の方法や報告文の作成等、その模範を示されました。

お二方とも誠におめでとうございます！

平成 28 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古舘 吉弘

平成 28 年度庶務日誌

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸科入学式に佐々木会長出席（ホテル東日本）
- 4 月 1 日 ニチイ学館と釜石小川地区ボランティア実施契約書を交わす
- 4 月 4 日 県民法人税納入
- 4 月 17 日 第 1 回監査会並びに第 1 回執行部会議開催（アイーナミーティングルーム）
- 4 月 19 日 法人市民税納入
- 4 月 22 日 熊本地方震災義援金を全鍼に送る
- 5 月 8 日 第 1 回理事会並びに第 75 回定時総会及び臨時理事会開催（アイーナ 5 階 501B）
- 5 月 24 日 役員登記変更届を法務局に提出し、同月 26 日に受理される
第 3 回理事会開催に佐々木会長出席（東京）
- 6 月 19 日 希望郷いわて全国障がい者スポーツ大会実行委員会に佐々木会長出席（マッサー

ジセンター)

- 7月2日、3日 東鍼連青森大会（野辺地町まかど温泉観光ホテル）付添含め13人参加
 - 7月10日 岩手県視覚障がい者友好協議会の第40回総会にお祝いメッセージを送る
 - 7月31日 第2回執行部会議（アイーナ）
 - 8月30日 台風10号で上館宏会員浸水被害にあう
 - 9月8日 上館宏氏に全鍼師会と岩手県師会より見舞金を送る
 - 9月11日 視覚障がい者関連団体協議会臨時正副会長会議に佐々木会長出席（視覚支援学校）
 - 9月22日、23日 東洋療法推進大会 in 東京に佐々木会長参加（東京品川プリンスホテル）
 - 10月12日 「生活保護法による医療扶助運営要領の一部改正に伴う施術（あん摩マッサージ鍼灸）に関する変更協定書」を盛岡市と交わす
 - 10月22日～24日 第16回全国障がい者スポーツ大会希望郷いわてコンディショニンググループ担当（盛岡・雫石・奥州の3会場で、29人で133人施術）
 - 10月29日～30日 東鍼連岩手交流会（平泉観光と猊鼻溪舟下り）岩手8名参加（全体で19名参加）
 - 11月1日 岩手労働基準局と「労災保険あん摩マッサージ指圧師、鍼師及び灸師施術料金算定基準協定書」を交わす
 - 11月13日 全国都道府県師会長会議に佐々木会長出席（東京「biz新宿」）
 - 11月20日 東鍼連師会長会議に佐々木会長と佐藤茂東鍼連事務局長が出席（仙台市「荒町市民センター」）
 - 11月26日、27日 東鍼連保険部長会議と研修会に袖林保険部長出席（天童市）
 - 11月27日 一関支部百周年記念式典・祝賀会に佐々木会長出席（サンルートいちのせき）
 - 12月11日 盛岡支部創立75周年記念祝賀会に佐々木会長出席（濱野井）
- 平成29年
- 1月8日 第3回執行部会議開催（ホテル紫苑）
 - 2月5日 視覚障がい者団体連絡協議会会議に佐々木会長出席（マッサージセンター）
 - 3月16日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸科卒業式に佐々木会長出席（ホテル東日本）
 - 3月19日 第3回理事会開催（アイーナ）
- その他、 県師会情報メール版を115回発行しております。

平成28年度第75回定時総会報告

総務部長 古館 吉弘

5月8日（日）アイーナ5階501Bにおいて28年度の定時総会が開催されました。
今年も、昨年をさらに上回り多くの会員が出席し盛大に行われました。

初めに、資格確認を行い5月7日現在会員数107名中出席43名、委任状38名、合計81名、欠席26名となり過半数を超えているので総会は成立する旨を報告しました。

佐藤明副会長の開会のことばに続き、佐々木会長の挨拶があり続いて来賓として出席いただいた、岩手県視覚障害者福祉協会理事長、日盲連副会長の及川清隆様より御祝辞をいただきました。祝電披露の後、議長に大船渡支部の古水健吾氏、議事録記録人に盛岡支部の井口力氏、議事録署名人に二戸支部の山本孝一氏と盛岡支部の佐藤茂氏が選出され議事に入りました。

(会長あいさつ)

本日は、ゴールデンウィークの中、多くの皆さんにお集まりいただきありがとうございます。昨年を超す参加人数で嬉しく思います。

平成 28 年度も始まって一ヶ月が過ぎました。28 年度、29 年度は岩手県師会にとって大きな行事をたくさん控えています。

一番近いところでは 8 月 7 日に予定している「鍼灸の日」記念事業としまして、今年が初めての試みですがアイーナ 4 階におきまして鍼灸マッサージの体験コーナーを行います。

そして、県民の皆様は鍼灸マッサージの素晴らしさと無免許者が多くいることを啓発して行きたいと思っています。国民の中で鍼灸マッサージを受けたことのある人は 4.6%という数字もあります。その中には鍼灸マッサージではなくカイロ整体を受けた人も入っているはず。そこで、免許を持ったプロの技はこういうものだよということを広くアピールして行きたいと思っています。

また、10 月末には東鍼連交流会が岩手県師会主管で行われますし、その 1 週間前には全国障がい者スポーツ大会が行われ、コンディショニンググループを担当することになっています。

さらに、来年度は、東鍼連岩手大会が行われます。このように多くの行事が控えていますのでご協力をお願いします。今日は、この後役員改選などもありますので時間も限られておりますが審議のほど宜しく願いして挨拶とします。

議事

第 1 号議案 会長会務報告 佐々木実会長

1. 厚労省の免許保有者証が発行された。

これは、無免許者との差別化を図る意味で発行されたわけで会員は 2 千円、会員以外は 4 千円ということで申し込みをしました。

第 1 回目ということではいろいろありましたが最終的には県師会からは 61 名の方が申し込みました。

2. 昨年は、柔整の保険請求の不正とか犯罪がありました。

反社会的組織と柔整の人たちが組んで保険を不正請求したという事件がありました。

3. 次にめでたい話ですが当会の伊藤庸一先生が「岩手県保健功労賞」を受賞されました。

本日の懇親会の席でお祝いをしたいと思っていますが当会では 8 人目です。

医師とか、看護師とか、医療関係の人たちと肩を並べて鍼灸マッサージ師の代表として受賞されたことは大変喜ばしいことと思っています。

4. 専門学校の卒業式と入学式に毎年出席していますが、最近は柔整も鍼灸科も定員割れして減っています。

そこで、全国の学校は何とかして経営を立て直して行かなければならないので、マッサージ科の新設を行おうとして、ことごとく厚労省からははねのけられております。

以上、報告とします。

第 2 号議案 平成 27 年度各部事業報告とその承認

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、介護予防事業推進委員会、無免許対策委員会より順次報告があった。

第 3 号議案 平成 27 年度収支決算報告並びに監査報告とその承認

財務部長より 27 年度 4 月 1 日から 28 年 3 月 31 日までの決算報告があり、続いて監事から帳

簿や領収書綴り等にも誤りがないこと、公益目的支出も適切に行われていることを認めるとの監査報告があった。

第2号議案、第3号議案は全会一致で承認された。

第4号議案 東鍼連岩手大会について。

東鍼連事務局長佐藤茂氏より次のような説明が行われた。

1. 日 時 平成29年7月2日、3日
2. 会費 フル参加 18000円、付き添い 15000円、学術のみ 3000円
3. 場 所 つなぎ温泉ホテル紫苑
4. 内容 初日 学術発表、講演は和漢屋薬局薬剤師 白澤 順先生ほか。

また、二日目は太極拳の講演と実技の予定。

尚、実行委員長には佐々木実会長、事務局長佐藤茂、財務局長佐藤明となっております。

第5号議案 全国障がい者スポーツ大会について

(会長説明) 当会の担当はグランドソフトボールが三日間、奥州市の体育館で行われるSTT(盲人卓球)三日間、雫石で行われるアーチェリーは一日。

開始時間が早いので移動が大変。7月末までに協力者を募る予定。

第6号議案 平成28年度各部事業計画について報告

各部より28年度事業計画について説明があった。

第7号議案 平成28年度予算について

財務部長より説明があった。

次に、8号議案のその他、第9号議案の役員改選については選挙を行い開票に時間がかかるので入れ替えて先に役員改選を行うこととした。

選挙管理委員長の小澤信男さんから投票方法について、選挙管理規則について説明が行われ各立候補者の名簿が読み上げられ出席者を確認し42名より投票が行われた。

開票までの間にその他を行い総務より7月2日、3日に青森で行われる東鍼連の参加者の募集、学術部より6月5日の第1回生涯研修会の概要が説明された。

(投票結果) 立候補者名簿の通り全員信任された。

新役員については下に記します。

ここで、退任される監事千葉謙一さんと中渡智彦さんより退任の挨拶をいただいた。

次に、新しく監事になられた朝橋正美さんと清水寛平さんに新任の挨拶と、新理事になられた佐々木キミ子さんの代理の佐々木忠久さんよりメッセージを代読していただいた。

その後、議長が降壇し佐藤茂理事による閉会のことにより総会が終了した。

そして臨時理事会を開き、会長に佐々木実氏が再任された。

また、各部担当について、会長より下のように任命された。

以上、総会の報告といたします。

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会 役員名簿

平成28年5月8日～

代表理事会長	佐々木 実	総括
業務執行理事筆頭副会長	佐藤 明	学術部長 IT担当 盛岡支部長
業務執行理事副会長	古舘 吉弘	総務部長 二戸支部長

業務執行理事副会長	山本 英典	財務部長
業務執行理事	袖林広正法	保険部長
業務執行理事	井口 力	庶務部長
業務執行理事	松下 優子	広報部長
業務執行理事	佐藤 茂	組織強化部長 財務部長補佐
業務執行理事	館下 正則	事業部長 一関支部長
理事	千田 節雄	無免許対策 奥州支部長
理事	古水 健吾	介護予防委員会委員長 大船渡支部長
理事	上館 宏	宮古支部長
理事	佐々木きみ子	遠野支部長
監事	朝橋 正美	遠野支部
監事	清水 寛平	盛岡支部
顧問	神崎 浩之	岩手県議
顧問	下佐 征昭	前会長
相談役	伊藤 庸一	前副会長

特別委員会

- ・無免許対策委員会 委員長 千田節雄
佐々木実、佐藤 明、古館吉弘、館下正則、古水健吾、上館 宏、佐々木きみ子
- ・介護予防事業推進委員会 委員長 古水健吾
伊藤庸一、佐々木厚男、佐藤明、松下優子、朝橋正美、清水寛平、藤田茂樹、
姜 奈希、佐々木ひで子、田沢博崇、山本英典

会長会務報告

全鍼代議員総会等報告

会長 佐々木 実

5月29日から30日にかけて、東京の「ルポール麹町」で行われた全鍼代議員総会、東鍼連第3回理事会、日本鍼灸マッサージ連盟総会、協同組合総代会の四つの会議に出席して参りましたので報告します。

平成28年度全鍼代議員総会

会議は代議員数108名中1名欠席、20名が委任状出席、87名の直接出席をもって行われました。

まず、平成27年度の事業や決算報告については、

(杉田会長) 免許保有証については、初年度申込者が全国で8千人を超えた。そのうち5千人強を全鍼師会会員が占めた。協力に感謝したい。

Q.(栃木) 厚労省専門官は、無免許取り締まりに関してあはき法改正のことは何も言っていないのか？

A.(法制局) 言っていない。無免許者への指導・警告は県庁が、取り締まりは警察が行う。無免許者が効果・効能をうたった時は取り締まるようにと厚労省は各県に通達を出している。

次に、定款の一部改正については、理事の定数をこれまでより5名減らして「15名以上20名以内とする」と改正したいとの案が示され、満場一致の賛成で可決されました。

さて、問題は第4号議案の「会費の値上げについて」です。財務より「来年度から会費を2千円上げたい。この場で承認していただきたい」との提案がありました。

Q. (大阪) 27年度の決算書を見ると、そんなに逼迫した感じがしない。これまで消費税値上げに呼応して上げて来なかったのが苦しくなったと言うが、それなら消費税分だけ上げればよい。2千円というのは便乗値上げではないのか？

A. (会長) 入会者がこの10年で3千人減っている。支出に関しても役員行動費など節約を重ねて来ている。

Q. (岩手) 値上げするというのなら、その根拠となる資料を提示して提案するべきだ。何の資料も出さずに「承認して欲しい」では納得出来ない。県に帰って師会会員に何と説明すればいいのか？

A. (財務) 会員が減って収入が減った。それに金がなくては何もやれない。役員は節約をしている。

Q. (岩手) 会計が苦しいということは分かる。値上げに反対しているのではない。その資料を出して欲しいと言っているのだ。上げたらこのくらいの予算になるし、上げなかったらこれくらいとなりこれくらい足りないという資料を示して承認を求めるのが普通ではないのか。これではあまりに暴力的な提案だ。

A. (会長) 資料を用意しなかったと言われればその通りかもしれない。だが、今の総会でこの値上げ案を通してもらわないと来年の活動がやって行けない。何とか承認して欲しい。

Q. (宮城) 来年の総会で値上げ資料を出し、その上で承認を貰うという方法でいいのではないか。そうでないと末端会員を納得させることは出来ないと思う。

Q. (大阪) 値上げすれば会員が減ると思うが、その辺はどう考えるか？値上げしても会員が減れば、すぐ資金は足りなくなるのでは？

A. (会長) それはやってみなければ何とも言えないが、今は値上げしないと会の事業がやって行けないということだ。

Q. (千葉) 県師会の会員となっているが全鍼の会員にはなっていないという人がおり、それを認めている県師会があると聞く。全鍼のことを考えたら県師会会員イコール全鍼師会会員とするべきではないのか？

A. (会長) それが理想だが、各県師会は一個の独立した団体である。それに関してはその団体の考えに任せるしかない。ただ、全鍼としては、是非全鍼にも加入するようにとお願いするしかない。

※この値上げの件については全会議の半分以上の時間を要して色々な角度から意見や質問が出されました。が、概略をいうと、「値上げには賛成するが、納得しうるだけの資料を出せ」という意見と、それを用意していなかった執行部の「会員が減っているから」という逃げの答弁の堂々巡りとなりました。結局この案件は最後に回され、会議時間が30分余オーバーした中で、あきらめとどさくさ紛れの中採決が強行されました。「資料を出してからにして欲しい」という東北代議員の意見は否決され、値上げ賛成53票プラス委任状20票で可決されました。

その他、話し合われた事項です。

(健康づくり委員会) 研修会を開き、将来的に各県に認定者を何人か置けるようにしたい。そうすればその県師会で認定講習会を開けるし、地域の健康づくり担当者にアピールも出来る。

(熊本・大分震災について) 全鍼では会員の皆さんから支援金という形で金を集めている。義援金と支援金では意味が違い、支援金では被災者や当地へのボランティア活動費にも使える。現在 60 万円寄せられている。

Q. (長野) 免許更新制を厚労省では考えていないだろうか? 更新制となれば、全鍼の組織力も上がると思うが?

A. (会長) 更新制は今のところ難しい。

(事業局) 今年度の東洋療法推進大会は、東京の「品川プリンスホテル」で 9 月 22 日、23 日に行う。15 周年ということで、記念大会とし、記念講演 3 題を用意する。

また、来年度は「あはき法」制定 70 周年記念となるので、記念大会を来年 11 月 3 日に東京有明アリーナで開く予定である。

平成 28 年度東鍼連第 3 回理事会

夜 8 時 30 分から 2 時間余り、青森県代議員宿泊ルームで行われました。議題は主に東鍼連青森大会の進捗状況説明でした。また、岩手からは今年度の当番である東鍼連交流会、来年の担当である東鍼連岩手大会のプログラム資料を理事に配り了解をいただきました。この中で、今年度から東鍼連大会参加費は 1 万 8 千円となりました。

その他では、岩手県からの提出議題「東鍼連に学術部を設けるのは予算の裏付けや活動の具体化がなってから進めるべき」という件について話し合わせ、「もっと時間をかけて審議しよう」ということになりました。

平成 28 年度政治連盟総会

総会は 29 日の 9 時から 10 時 30 分まで行われました。今年は 7 月に参議院選挙があることから、国会議員も多く参加しました。現厚労大臣と前厚労大臣をはじめ、自民党の大物が次々と挨拶に立ちました。

会議では、前年より会員数が減ったが、会費額は増えているという報告がありました。岩手の会員数は 10 名ですが、これは全国的に見ても少ないレベルです。今年度からは名称を「全日本鍼灸マッサージ政治連盟」から「政治」という言葉を抜いて鍼灸マッサージのために政治活動だけでなく幅広い活動をして行こうということになりました。

会費は年間 1 千円です。私に連絡いただければ振り込み用紙を送りますので、ご協力をお願いいたします。

協同組合総代会

鍼灸マッサージ連盟総会終了後の 10 時 30 分から総代会は行われました(皆さん疲れ気味)。協同組合の売上高は、前年度より平成 27 年度は 7 パーセント増となり、売り上げランキング

では、1. カレンダー・うちわ、2. ロゴマーク商品、3. 酵素商品、4. 手ぬぐい・タオル、5. 鍼、6. 梅干し、7. 枕カバー、8. 白衣、9. 昆布の順となっています。

新商品では、ネイルネッパ（爪切り）が人気を集めたとのことでした。それにしてもディスプレイ中心の中、本業の鍼の売り上げ高が 5 位というのも不思議というか、PR不足というか…。

最後に賠償保険事故種類別内訳を記して報告を終わります。

骨折 9 件、気胸 5 件、火傷 9 件、折鍼 6 件、挫傷・強刺激 28 件（因果関係不明事案含む）、物損 6 件、施設賠償 1 件、個人賠償 3 件、合計 67 件。

全国都道府県師会長会議報告

会長 佐々木 実

11 月 13 日に東京の「B I Z 新宿」で全国師会長会議が 11 時から 4 時まで行われました。欠席した師会は青森と福岡だけで、他師会は出席し、活発な意見交換が行われました。

議題は大きく分けて、

1. 今年度のこれまでの事業報告
2. 今後の事業について
3. 各県師会からの提案事項についてでした。

1. 報告事項については、来年度からの会費値上げについて「説明不足！」と 5 月の代議員総会で批判を受けたことから、遅ればせながらも詳細な資料の提出がありました。

多くの時間を費やしたのは、会員減少をどのようにして食い止めるかということでした。そのためには、「あはき学生を卒後入会させるためにどうしたらよいか？」ということに各師会から案が出されました。「学生会員制を設けて、学生の頃から会の情報が行きわたるようにしては」とか、「研修会費や卒後 3 年間は会費を免除する方法もあるのでは」等。この件に関しては、岩手県師会も考えて行かなければならない事柄です。

2. 今後の事業については、

- ・免許保有証を一般の人たちに知らせるポスターが出来たので各県に何枚か送付する。
- ・災害支援マニュアル、危機管理規定、派遣要領を全鍼で作った。災害が起こった時のボランティア派遣等に関するマニュアルを各県師会でも作って欲しい。
- ・月刊東洋療法の送付については、電子化を進めて行きたい。PDF による配信、全鍼HP からのダウンロード等も考えて行きたい。
- ・代議員、補欠代議員の選挙を行う時期となった。協力をお願いしたい。

3. 各県師会からの提案事項では、

宮城 あはきは医業行為と最高裁裁判でもはっきりと謳っている。が、全鍼はあいまいな態度を取っている。認識を伺いたい。

答（法制局） 医業だと考えている。が、厚労省は医業類似行為としているので、協議においてそのことを主張すると他の話が進まなくなる。今、日鍼会を中心にあはき法改正案を練っている。その中にははっきりと医業と明記するという方向で進められている。

福島 全鍼で行う研修会をネット利用してサテライトスタジオで地方の人たちも受講出来るという体制は出来ないのか？

答（学術局） 実技を除いては研修単位も出せると東洋療法試験財団から確認を取った。

前向きに検討して行きたい。

山口 19条をめぐって今裁判が起こっているが、全鍼の考えを聞かせて欲しい。

答（会長） 全鍼としては、国（厚労省）が訴えられているので、国に味方するというスタンスを取っている。が、視覚障害者の生計維持が成り立つように国は努力をしてこなかったというのも事実。たとえばだが、往療に行く時のタクシー代を補助するとか、見えないための不利を補うアシスタント費を補助するとかした上で19条は緩和して行くべきと考えている。それらが実施されていない今日では、19条廃止とはいかないというスタンスだ。

最後に、鍼灸マッサージ連盟報告では、会員が段々減って来ている。年間1000円の振り込み書を今後は月刊東洋療法の袋の中に入れるので、多くの人たちの協力をお願いしたい、とのことでした。

東鍼連師会長会議報告

会長 佐々木 実

11月20日（日）、仙台において開催された東鍼連師会長会議の結果を簡単に報告いたします。出席者は、宮城は山田会長、山形は白田会長、秋田は高橋会長、福島は代理で熊田副会長、岩手は私と佐藤茂東鍼連事務局長、青森は欠席でした。

1. 東鍼連青森大会の反省

参加者は業者を含めて99名、懇親会90名、宿泊86名だったそうです。

（秋田） 交通の便が悪かった。

（岩手） 青森の大会本部と連絡が取れず大変だった。部屋割りも前もって教えて欲しい。

（山形） 前もっての綿密な連絡が欲しかった。料理は充実していた。

（宮城） 一般会員の昼食の場がなくて不便だった。

2. 代議員会の懸案事項

（1）岩手からの「学術部設置は費用を勘案して慎重に」という件

「学術部ではなく学術委員会とする。構成は各県学術担当者1名を学術委員とし、名称は『東鍼連学術委員会』とする。来年の岩手大会で代議員会に同席してもらい長を決める。委員の住所・電話番号・メールアドレスを公開し、それぞれに連絡を取り、「東鍼連の臨床体験発表テーマの方向性を検討、査読を行う機関とする」ということに決まりました。

（2）宮城から出された「免許保有証活用と社会への告知について

（岩手） 障害者国体のコンディショニングルームボランティアに際して、身分確認として大変役立った。

8月に行った「鍼灸マッサージ県民公開セミナー」の時にも掲示させようとしたが、取得していない人もいて断念した。

（山形） 90周年記念式典の時に、記念品という形で全員に取得させた。

（宮城） 危機管理締結を市や県と行う時に免許保有証パンフレットを使い交渉したい。

山形を除く出席県からは、会員全員に持たせる方策を考えていくということで話を結びました。

3. 東鍼連事業中間報告

佐藤茂事務局長より説明があり、意義なく了解されました。

4. 東鍼連会計中間報告

欠席した佐藤明財務局長に代って私の方から説明し、次のことが決まりました。

- ・役員行動費（事務局長、財務局長、東鍼連会長）を1万7千円から1万8千円に今年度からする（東鍼連大会参加費を基本としているので）。
- ・来年度から各県負担会費を5千円上げて6万円とする。上げた分の5千円×6師会分は、災害発生時にその県師会へのボランティア派遣や助成金とする。

5. 各県活動報告（特記事項のみ）

（福島）研修会をサテライト方式で行うように千葉県師会と協議中

鍼灸師会と共同で保険請求をやっていたが、今年からは個人請求という形にした（審査上の問題等）。

（山形）これまで新聞への広告費として会員1人1千円集めていたが、全鍼会費値上げにより、広告費を止めそちらに当てることにした。

（宮城）24時間テレビにブース出店代8万円を払って二日間ワンコインマッサージを行った。

（秋田）ケアマネが利用者に無免許者を紹介する例があるので、正しい理解を求めるパンフレットや書類を準備中。

（岩手）初の県民公開セミナー、障害者国体ボランティアと新しい取り組みも会員の協力で成功させることが出来た。

6. 東鍼連岩手大会の進捗状況について

佐藤茂事務局長より説明があり、次のことが決まった。

- ・記念大会ということで、各県1名の東鍼連会長表彰、梅宮光男顧問を表彰する。その費用は東鍼連会計から出す（賞状・賞状額・記念品）。製作は開催県が行う。
- ・学術大会の閉会宣言は1日目の終わりではなく、2日目の最後とする。

7. その他

（宮城）平成30年度の東鍼連大会は温泉ではなく、仙台市内のホテルで行い、臨床発表テーマは「再現性のある私の自慢治療」にしようかと考えている。特別講演は医師で鍼灸マッサージ師の鹿島田忠史先生にお願いしようと思っている。

その他、確認しあった事項です。

- ・東鍼連では「あはきは医業である」との認識で一致。
- ・全鍼から示された危機管理マニュアルの規定や県との協定、財源の確保については、とりあえず規定を各県で定めることとする。

以上、11時から3時までの会議でした。例年になく多くのことが決まり、全国情報など多くのことが話された有意義な会議でした。会議終了後、宮城・山田先生、秋田・高橋先生、私と茂さんとお茶（ビールの人も）しながら、1時間ほど情報交換を続けて帰途につきました。

学術部活動報告

第1回生涯研修会報告

学術部長 佐藤 明

第1回目の生涯研修会は、6月5日（日）、アイーナ団体活動室3において開催された。ス

スタートして8年目を迎えた生涯研修会も、今回で通算28回目となりました。

参加者は、会員25名、付添い2名、一般鍼灸マッサージ師2名、専門学校生2名、カナケンさんの合計32名が参加しました。

開会式では、前年度の生涯研修単位取得修了者12名の紹介を行い、今年度の新会員をはじめ、一般鍼灸マッサージ師の方と専門学校の学生から自己紹介をしてもらい、歓迎の拍手とともに和やかな雰囲気での研修会は始められました。

講演の1題目は、袖林広正法保険部長による「保険取扱いについて」でした。昨年度の保険取扱い集計結果の報告。次に、「いかに医者から同意書をもらうか」、「いかに全盲の人が保険を取り扱うか」をテーマにディスカッションと質疑応答するというもので、毎年、新企画があり、参加者の発言機会が増えた研修会となり充実した内容でした。

続いて、講演の2題目は、当会佐々木実会長による研究発表でした。夏の東鍼連青森大会学術研究発表の予行練習を兼ねた「片頭痛の鍼治療」を演題とし、これまで50例ほど取り扱ってきた経験を話していただきました。それは、治療前に、片頭痛のみか緊張性頭痛の混在型かの鑑別診断が重要であるとし、独特の見分け方などの紹介をはじめ、術者の心構えとして患者からの情報収集と知識が必要であると話されました。

午後の部は、秋に予定されている全国障害者スポーツ大会岩手大会に向けた研修でした。

実技の1題目は、佐藤茂組織強化部長が講師を務め「セルフストレッチマニュアル」でした。プロジェクターや資料のイラストを見ながら説明してもらい、実際にその姿勢や動作を体験しながら学習を深めることが出来ました。これは、講師の発案によりあらかじめ点字使用者に事前に資料を送付し、予習をしてきてもらうという方式を初めて取り入れたもので、とても学習効果が高いものでした。

実技の2題目は、テーマを「膝関節のキネシオテーピング法」として、グループを2班に分け、講師による実演とその後実際に貼り方を体験するというものでした。講師は、館下正則事業部長と学術部長のわたくしが担当し、膝関節内側側副靭帯の損傷に対するキネシオテープの貼り方の実技を学習しました。

実際にテープを貼った感想を参加者に聞いてみると、違和感もなく思いのほか気持ちが良いなどの声が多く聞かれ、治療院ですぐ使えると好評でした。

今回の研修会は、熱心な受講態度と学習意欲にあふれた一般有免許者と学生が参加され、閉会式において受講感想を述べてもらい終了としました。

第2回生涯研修会（「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2016」）報告

学術部長 佐藤 明

8月7日（日）の猛暑日に近い暑い日アイーナ4階県民プラザA・B・C並びにアイーナ6階団体活動室3において開催され、会員32名、付添2名、医療器具業者2名を含む36名が参加しました。

今回は、一般市民向けの「鍼灸マッサージ県民公開セミナー2016」と、会員を対象とした「セルフストレッチマニュアル」並びに「キネシオテーピング」の復習を行いました。

公開セミナーでは、鍼灸コーナー、マッサージコーナーの無料施術と健康づくり運動の 3 つのコーナーにのべ 110 名の県民が来場され東洋療法の効果を体験いただきました。

これは、8 月 9 日、「はりきゅうマッサージの日」にちなんだイベントとして実施し、「県民の健康づくりに貢献する鍼灸マッサージの普及と啓発」を第一目的とし、第二の目的は、「無免許業者施術による健康被害に遭遇しないよう注意を促す」機会として広く県民に呼びかけようと初めて取り組んだものです。

朝 10 時、参加会員が集合し、全員ビブスに名札を着用したユニホーム姿で統一した会員は、やる気満々という雰囲気で開催式を迎え、その気合いの高さを感じた佐々木実会長から、今までにないほどに皆さんの気力のみなぎりを感じている、その元気で暑さを吹き飛ばすような団結力の強さを発揮して臨んでほしい、という激励の言葉がありました。

その後、担当部署ごとの打ち合せを済ませ、4 階フロアの会場設営を行いました。受付スペースを設置したり、簡易ベッド 4 台やワゴン、パイプ椅子を並べたり、展示パネルの配置やパネルにポスター等を掲示するなど準備を整え、以前から作製してあった当会オリジナル幟旗（のぼりばた）を 5 本設置し、予定通り 11 時にスタートしました。

鍼灸やマッサージコーナーは、開始前から順番待ちの市民が並び盛況でした。ことにもマッサージが特に賑わいを見せ 56 人の利用者がありました。鍼のコーナーでは 31 人の方が体験され、初めて鍼施術を受けた方からは予想外に痛くなかったとの声が多く聞かれました。二つのコーナーではベッドの数がもっとほしかったと感じました。予想以上に女性より男性が多く来場されその比率は 5 : 5 でした。

施術を担当した会員は、親しみやすいことばで話しかけながら、鍼灸マッサージの効果や健康づくりについてや無免許施術による健康被害に注意していただくよう、さりげなく語りかけていました。

健康運動コーナーは、のべ 23 人の方が受講され、10~15 名程度をまとめて集団指導することを想定したものの、1~2 名、4~5 名ずつの小グループにほぼマンツーマンの体操指導となり、結果的に懇切丁寧な触れ合い指導が行われ、受講者には良かったと思います。

会場内のパネルには、全鍼師会作成のポスターや鍼灸に関する掲示物を張り出したり、鍼灸マッサージを受診する際の手引きとなる「安心治療のお知らせ」リーフレット、東洋療法についてのパンフレット、無免許注意喚起を促すチラシ、世界鍼灸学会連合会学術大会の資料、当会会員治療院一覧表を来場された市民に配布しました。

一方、団体活動室 3 において、会員を対象とした講習会が開かれ、午前は、佐藤茂組織強化部長を講師とする、「セルフストレッチマニュアル」の復習を行い、午後は、館下正則事業部長による「キネシオテーピング」の復習を行いました。この講習会は、全国障害者スポーツ岩手大会ボランティアにつながる研修として位置付けられ、3 月、6 月の生涯研修会につづく 3 回目として、午前、午後とも約 1 時間行われたものです。

午後 2 時半、県民公開セミナーは終了し、会場の撤収作業が手際よく終了しました。その後、団体活動室 3 において閉会式を行い、各担当部署の責任者をはじめ会員からの感想や意見等を述べてもらいました。

最後に、会長から全会員の頑張りで初めてのイベントを成功させることが出来た、暑い中本当にご苦労様でしたとねぎらいの言葉があり、この団結力を今後の活動に生かして行きたい、そして、総括として会員からの意見を集約し次回の糧とすると締めくくられ終了となり

ました。

まとめとして、初開催のイベントを通して、広く県民に向けたテーマ「健康づくりに役立つ鍼灸マッサージを知ろう！」という呼びかけは、全会員の力の結集により成功したと思います。そして、気持ちを一つにして取り組んだ達成感と成功体験を全会員で共有し、会として一層の組織発展の原動力になるものと確信しています。

第3回生涯研修会（「健康保持のための研修会」）報告

学術部長 佐藤 明

9月11日（日）、すがすがしい秋晴れの日、例年開催されている三団体共催による学術研修会は、「健康保持のための研修会」という名称で、岩手県立盛岡視覚支援学校において開催され、会員36名を含む45名が参加し盛況のうちに開催されました。

午前9時30分から開講式が行われ、主催者を代表して及川清隆岩手県視覚障害者福祉協会理事長の挨拶と、来賓として民部田誠岩手県立盛岡視覚支援学校長の挨拶をいただき、佐々木実岩手県鍼灸マッサージ師会会長による講師紹介がありました。

さっそく研修会に移り、講師の芝山豊和先生（大阪府・芝山鍼灸整骨院院長）による、「首、肩、腰部疾患に対するチクチク療法の実践」というテーマで行われました。

内容は、医師の長田裕先生考案の無血刺絡療法（チクチク療法）から始まった、新しい療法として注目を浴びているもので、その手技を用いて2万5千例以上の治療経験を持つ鍼灸師の芝山豊和先生にその理論と実技を解説していただきました。

講演の要点は、病気、痛み発症のメカニズムや交感神経の害とは何かから始まり、施術方法やその使用する器具などについてお話しいただき、チクチク療法の効果や利点、養生法としてのメリットについても触れていただきました。そして、いよいよ腰部に対する無血刺絡の実践へと進み、腰部疾患の見方と腰パートの施術ポイントの取り方・決め方について、腰部疾患名ごとの施術ポイントをプロジェクターで写真を示しながら解説していただき、次に、頸部に対する無血刺絡の実践に移り、同様に基礎理論を中心に解説していただきました。

午後の部の実技は、二人一組になり先のとがった特殊ピンセットを用いた「チクチク療法」を体験することになりました。初めての方が多く、手技の要領をつかめないこともあり、予想外の痛さに会場内は少しざわつく場面がありましたが、芝山先生の施術によるチクチク感を体験してからは、熱心にその手加減を習得しようとする姿がみられました。

また、参加者の中で持病のある方に対して、芝山先生が施術したところその場で痛みが楽になるなど、その即効性に感嘆の声が聴かれました。

芝山先生は大阪出身でもあり、特有の明るく元気な人柄や笑いを誘う巧みなしゃべりもあって、和気あいあいと充実した研修会でした。

閉講式では、参加者を代表して私が講師へのお礼の言葉を述べて終了となりました。

事業部活動報告

事業部長 館下 正則

- 7月23日 東鍼連青森大会（野辺地町、まかど温泉）参加協力
 9月18日 第35回一関市国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア実施
 9月22・23日 東洋療法推進大会 in 東京 佐々木実会長出席
 10月22～24日 希望郷いわて大会、第16回全国障害者スポーツ大会開催（マッサージボランティア協力）

平成28年度 釜石小川地区高齢者サポートセンター鍼灸マッサージ実施内容

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
4/10	2	10	10/30	2	8
4/24	2	12	11/6	2	6
5/15	2	10	11/20	1	6
5/29	2	12	11/27	1	5
6/12	2	10	12/4	2	10
6/26	2	10	12/18	2	6
7/3	2	8	H29年1/15	2	8
7/17	2	12	1/22	2	7
7/31	2	8	1/29	2	8
8/7	2	6	2/5	2	9
8/21	2	11	2/19	2	5
9/18	2	8	2/26	2	10
9/25	2	6	3/26	2	8
10/9	2	7	合計 27回	のべ 52名	のべ 226名

老人施設等奉仕活動

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
5/15(一関)	9	40	10/16(大船渡)	7	35
7/10(一関)	7	32	10/30(盛岡)	7	73
8/28(奥州)	7	32	11/20(盛岡)	6	14
9/18(一関)	9	75	合計 7回	のべ 62名	のべ 301名

希望郷いわて大会、第16回全国障害者スポーツ大会ボランティア報告

月日	参加者数	施術数	月日	参加者数	施術数
10/22(盛岡市)	5	7	10/24(盛岡市)	5	3
10/23(盛岡市)	5	25	10/24(奥州市)	5	18
10/23(雫石町)	4	2	—	—	—
10/23(奥州市)	5	77	合計 6回	のべ 29名	のべ 132名

保険部活動報告

保険部長 袖林 広正法

最初に保険取り扱いアンケート調査を行いました。その結果、他県ではすべて減となりましたが、岩手県は少し増になりました。

6月に保険取り扱い勉強会を行いました。

東鍼連青森大会に於いて保険部長会議に出席しました。場所は馬門温泉です。

また、11月26、27日の両日山形県の天童温泉で東鍼連保険部長会議と研修会に出席しました。その席上、平成29年度の秋の保険部長会議の開催地は、第一候補は宮城で、それが無理であれば岩手ではどうかという話が出ました。結論は東鍼連岩手大会の時に出すこととなりました。

それから、平成30年になりますと、現在市町村単位で行われている、国民健康保険の取扱いは都道府県単位に一本化されます。まだ詳細情報は入ってきておりませんが、もしかしたら委任払いで執り行うという噂がありますが、これも詳しいことはまだ入っておりません。

来年度は6月の生涯研修では保険の取扱いはやりませんが、取扱高アンケート調査はいつも通り実施しますのでご理解とご協力のほどお願いいたします。

さらに7月には当県の紫苑で東鍼連大会が行われます。これをみなさんとがんばって盛り上げていきたいと思っております。

組織強化部活動報告

東鍼連岩手交流会報告

組織強化部長 佐藤 茂

大会は平成28年10月29・30日2日間にわたり開催されました。本年は当県が主催側となり、世界遺産の平泉周辺の観光をメインに実施しました。

参加者は岩手8名、青森・秋田・福島が各一名ずつ、山形2名、宮城6名と合計19名でした。平泉駅に一同が集い、まずは毛越寺と中尊寺をガイド付きで観光しました。

肌寒かったですが、雨も降らず、何よりの天候でした。毛越寺では本堂にも上がることができ、薬師如来を参拝した後、浄土庭園を散策し中尊寺へ向かいました。

中尊寺の月見坂は体力のない方には大変そうで、やっと歩いている方もいて、背中を押し

てあげました。坂を越え本堂、金色堂などを拝観した後に秀衡の念持仏と言われている秘仏の一字金輪仏頂尊が御開帳されていて、そちらへ向かいました。

よく寺院では、定期的に秘仏の御開帳をしていますが、中尊寺ではいつ御開帳するかは分からないので、もう一生お目にかかれない可能性のある優しい顔をされた仏様をお参りさせて頂きました。

次に、達谷窟により毘沙門天などを参拝。ここには毘沙門天の最強のお札があり、ほとんどの方が手に入れられたご様子でした。その後、宿泊先の東山観光ホテルへ向かい講習会を僭越ながら私、佐藤 茂が『解毒の鍼療法』というテーマで講師をさせていただきました。そして夕食・懇親会、2次会へと交流は深まりました。

翌日は、狛鼻溪舟下りで紅葉の砂鉄川を先ずは上った先に狛鼻溪の名前の由来の『狛が鼻』を見て半分以上の方が運玉を投げました。いい大人たちが子供のようにムキになって投げていました。二つも入れた方もいてご満悦そうでした。やはり少年のような気持ちに戻れる時間はあった方がいいと思いました。そして綺麗な砂鉄川を舟頭さんの唄を聴きながら舟で下りました。その後は集合写真も撮り解散です。皆さんが満足されていたようなので、この交流会を企画運営した私も肩の荷を下ろすことができました。来年度当番の宮城県師会からは6名も参加下さりありがとうございました。感謝を込めてバトンを渡したいと思います。

介護予防事業推進委員会活動報告

委員長 古水 健吾

上半期の活動は、8月7日の県民公開セミナーを重点に取り組むことになり、一定の成果がありました。下半期は、各種行事等が重なり日程調整がつかず、貯筋運動教室は実施できませんでした。結果として、例年と比べて活動の少ない一年となりました。

次に、主な活動を報告します。

1. 第19回勉強会兼8/7鍼灸マッサージ県民公開セミナー打合せ会議
 - ・盛岡支部勉強会との合同開催となり県師会会員への介護予防研修に関するサポートを兼ねて実施
 - 期日：6月5日（日）15時30分～17時
 - 場所：アイーナ6階・団体活動室3
 - 参加者：7名
2. 鍼灸マッサージ県民公開セミナー2016
 - ・健康づくりコーナーを担当し貯筋運動を指導（23人受講）
 - 期日：8月7日（日）10時～15時
 - 場所：アイーナ4階・県民交流プラザ
 - 参加者：9名
3. 委員会会議開催
 - 期日：2月26日（日）13時～14時30分
 - 場所：岩手マッサージセンター 2階
 - 参加者：6名
4. 全鍼師会地域健康づくり指導者研修会

期日：3月4日（土）・5日（日）

場所：東京・新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校

参加者：古水健吾

5. その他

- ①貯筋運動（健康づくり・介護予防）教室は、下半期に1回開催予定を中止した
- ②貯筋運動教室のための事前勉強会は実施しなかった
- ③委員会メンバー居住地行政に対し介護予防教室参入へのサポートは実施できなかった

東洋療法推進大会 I N 東京報告

会長 佐々木 実

9月22日、23日の両日、品川プリンスホテルにて第15回東洋療法推進大会が行われ、延べ1300人の参加者でした。

今年の大会は、1日目に記念講演が二つあり、医師帯津良一先生による「東洋療法と養生一粋な生き方」。次いでアテネオリンピック女子ハンマー投げ代表室伏由佳先生の「スポーツと身体の話—コンディションを把握する大切さ」という講演でした。

帯津先生は、「貝原益軒の『養生訓』は『粋な暮らし』を提示している本だと思う。『粋』とは、生きる目標を持っていること、性の魅力を持ち続けていること、ときめきや色っぽさを持っていること、そしてあきらめを知っていることだ。自分は今日が人生最後の日だと思って毎日を暮らしている。そうすると物事の一つ一つが輝いて見え、感謝と喜びの気持ちでいっぱいになる。これが自分の養生である」と述べられました。

また、会場からの「これからの医療人へのアドバイスを」という質問には、「生きる悲しみが分かる医療人になって欲しい」と述べられ話を結びました。

室伏先生は、怪我や婦人科疾患という持病に悩まされながらも高いモチベーションを保ち続けるにはどうしたか？プレッシャーの克服法。アスリートは決して健康人ではない。体調を保つための練習プログラムやリハビリについて多くのスライドを用いながら話してくださいました。

記念講演後は、全鍼法人化35周年、協同組合20周年、杉田会長の叙勲祝賀式典が開かれました。席上、業界に功労した人たちに会長表彰が贈られ、当会の千葉謙一さんもその一人に選ばれ表彰されました。

祝賀会では政治家や多くの団体の長が来賓として出席。500名余の出席者でした。情報交換に忙しく、私も次々と声をかけられたり、かけたりでゆっくり飲んだり食べたりしている暇もないほどでした（ビールの量が減って体には良かったかも）。

2日目は分科会で、「よくわかる地域包括ケアシステム」、「あはき療養費検討専門委員会報告と今後の展望」、「無免許対策委員会講座」、「災害対策に対する今後の取り組み」の四つの中から、私は保険と無免許についての分科会に参加しました。

前者の分科会では、

- ・あはき保険の団体請求の占める割合が3割程度である。
- ・療養費払いを明文化するかどうかを厚労省は今年度中に決めると言っている。健保協会が委任払いについて強力的に反対している。

- ・10月からあはき保険料金が変わるので注意してほしい。
- ・施術の日数制限はないが、週に4回以上行っている患者については、その理由を説明出来るようにしてほしい。また、1年以上施術している患者については、ADL指標を書く欄が申請書に追加される可能性がある。
- ・不正請求した人の名前を厚労省から各保険者に公表するという案は見送られた。理由は、視覚障害者等が雇用主に印鑑を預け、雇用主が申請書の記入で不正をするということも考えられるから。
- ・柔整との併給禁止については今回は見送られた。これは柔整が一人当たりの単価を上げるため、鍼灸も併用しているケースが増えてきたからである。

後者の分科会では、

- ・「マッサージの定義をはっきりと決めてほしい」という会場からの意見について、「定義を決めてしまい、自分たちの汎用性を狭める可能性はないのかを検討中」。
- ・「あはきは医業であると昭和35年判決でも示しているのに、何故全鍼も厚労省も医業類似行為とするのか」という質問については、「あはき推進協では医業としたいという意見があるようだ。しかし厚労省が類似行為と決めているので、円満に交渉して行くためには、それに合わせている。これに対しては会場から不満の声が上がり、「無免許取り締まりの根っこでもあるので、是非医業という認識に改めるべきだ」との意見が出され、満場の拍手を受けました。

閉会式では、各分科会報告の後、来年開催予定の京都師会からの挨拶があり、大会は成功裡のうちに幕を閉じました。二日間、雨降りの大会でしたが、中身の濃い意義ある大会だったと思います。

第39回東北鍼灸マッサージ学術大会青森大会報告

副会長・学術部長 佐藤 明

平成28年7月2日(土)、盛岡駅から東北新幹線に乗り約45分、最寄駅の七戸十和田駅に到着。そして、野辺地町「まかど温泉観光ホテル」のマイクロバスに乗り換え約30分で会場に到着しました。岩手県からは会員と付き添いを含め13名の参加がありました。

午前中に開催された今年度第1回東鍼連理事会並びに第69回通常代議員会に佐々木実会長と山本英典副会長が出席しました。また、次年度は東鍼連岩手大会が開催されることから、佐藤茂事務局長と私、佐藤明財務局長も出席しました。また、保険部長会議には袖林広正法部長、組織強化担当者会議には館下正則事業部長が代理出席しました。

午後1時から開会式が行われ、大会テーマは“みんなでつくろう 北のまほろば”というものでした。白田栄二東鍼連会長はじめ地元の来賓挨拶や祝電の紹介があり、会場に集まった東鍼連会員と北海道鍼灸柔整マッサージ師会会員を含む約90名の参加者から盛大な拍手が送られました。

青森大会の学術研究発表のテーマは、「頭痛及び頭部疾患」でした。各県代表6名による臨床研究発表が行われ、岩手県師会からは会長佐々木実先生の「片頭痛の鍼治療」の発表でした。50例ほどの臨床経験から頭部の特徴的な触覚所見の紹介と主な使用経穴を紹介され、しっかりとした情報収集と知識を治療者は持つ必要があると発表されました。終了後、各県代

表 6 名に感謝状と記念品の贈呈が行われました。

続いて、学術講演「二次救急医療機関の夜間救急に従事する内科医からみた鍼灸師でも知っておかなければならない頭部疾患」という長い演題で、一般社団法人日本統合医療支援センター代表理事の織田聡医師による講演が行われました。確かに演題の通り、我々においても日常的にとっても重要性の高い医学知識として大変勉強になる内容であったと感じました。

そして、毎年恒例の全鍼師会杉田久雄会長の特別講演が行われた。演題も恒例の「鍼灸マッサージ業界の最新情勢」という講演でした。なお、今年春の叙勲により、旭日小綬章を受章されたことが前東鍼連会長梅宮光男氏より紹介されました。

夜の部の懇親会は、北海道からの 9 名を交えた約 90 名の大宴会となり、思い思いに交流を深めていました。そして、アトラクションとして、地元の方によるフォーク歌謡のミニライブショーが催され盛り上がり一役貢献していました。

大会二日目の講演は、一般公開講座として行われ、チェアスキー日本代表の地元野辺地町出身の四戸龍英氏による「車椅子の可能性」という講演でした。四戸氏は 3 回パラリンピックに出場され、22 年前のリレハンメル大会において 2 種目で銀メダルを獲得され、18 年前の長野パラリンピックでは選手団主将を務め選手宣誓を行ったそうです。現在は、車椅子・電動車椅子の修理販売を手掛ける会社を営んでいるとのことでした。

先生のこれまでの人生の歩みと体験談をお話いただき、障害者スポーツに関わる活動や仕事を通して培われた考え方や意見を拝聴し学ぶことがとても多かつたし、実際に車椅子やチェアスキー、電動 3 輪バイクを会場に運び入れてもらい、直接触れる機会を与えられたことは、聴講者にとって大変貴重な経験となりました。

車椅子の材質や作り方、競技用の製作技術力はやはり日本が優れているようで、今年パリオデジャネイロパラリンピックがあり、テレビ観戦の興味が倍増するに違いありません。

大会の最後に、代議員会報告があり、検討課題として学術委員会を作る方向で協議を進めて行くことになった。保険担当者会議では各県保険取扱い高報告があり、組織強化担当者会議報告では 10 月に開催される岩手交流会についてなどが説明されました。

そして、来年の岩手大会について、本県の佐々木会長が、つなぎ温泉ホテル紫苑を会場とし、学術発表テーマは「脳疾患」、学術講演は漢方薬局経営の薬剤師、実技講演は太極拳指導を予定していることと、開催期日は 7 月 2 日～3 日（日・月）とすることを報告し、大会の一切が閉幕した。閉会后、青森県大会事務局長と財務局長から岩手大会の佐藤茂事務局長・私、佐藤明財務局長へと引継ぎが行われました。

東鍼連青森大会に参加して

盛岡支部 村上 哲也

私は山形、秋田、青森と東鍼連大会は 3 回目の参加になります。
未熟者の私にとって毎回、何か自分のプラスになればとの思いで参加しています。

今回も全体を通して興味深いお話を聞くことができました。

まず、各県の先生方の症例発表では頭痛に対する様々なアプローチの仕方を聞くことができました。また、自分より卒業年が新しい方の堂々とした発表に刺激を受け、自分ももっとがんばらなければと感じる場面もありました。

特別講演では、医師のお話として問診で重篤な脳疾患の患者さんを見つける際のポイント

を教えてくださいました。強く訴えていたのは「その患者さんに初めて症状が現れたときの様子を本人や家族に確認することが重要である」ということでした。

全鍼師会長である杉田会長のお話も印象深かったです。免許保有者証が発行されるまでの流れとして、厚生労働省との交渉のなか、なかなか最終決定が出なかったそうです。そこで会長は「何かあったら私が責任をとる。」と言ったのが決め手となり免許保有者証が発行されたとのことです。役員の皆さんのこのようなご努力には感謝いたします。

また杉田会長は、会員の結束のために、このような会合の際は鍼灸マッサージ師会のバッジや免許保有者証を身に付けてきてほしいと言っていました。私はどちらも身に付けていませんでしたので、今後は身に付けていこうと思います。

それから、学習会以外のお楽しみももちろんありました。温泉に入ったり、懇親会では会員の皆さんとお話ししながらおいしい料理を味わいました。ポン酢で食べたかにしゃぶがおいしかったです。そんなこんなで旅の思い出もできて岩手に帰ってきました。

最後に、お世話になった会員の皆さん、ありがとうございました。

「岩手県民公開セミナー2016」に参加して

二戸支部 野月平 優子

私は鍼灸ブース担当で参加しました。イベントそのものが初めての開催で、特に鍼灸ブースは初の試みということで、不安と緊張とが入り混じった状態で挑みました。控室では、佐々木会長から挨拶で、「医道の日本」9月号にセミナーの様子が掲載される。」というお話があり、今回のセミナーに対する熱い思いが伝わりました。

会場のアイーナは、ガラス張りでオープンな造りの為、パーテーションで仕切っていても施術風景は各方向から良く見えるので少々緊張しました。

いよいよセミナーが始まり、マッサージブースから混み始め、鍼灸ブースも予想外に混みました。午後になると鍼灸の来場者は減少しましたが、それでも全体的にみると予想以上の方々が来場くださいました。しかし、アイーナでは1階でのチラシ配りが禁止されていたり、館内でのアピールに制限がある中、来場者をマッサージから鍼灸そして体操教室へと誘導する方法を取り入れ、途中から無資格問題の会話を施術中にするように指示が回り、昼食休み時間を無くして交代など、全体を通して臨機応変な対応がなされていました。

セミナー終了後、反省点や良かった点が会員向けのメールで紹介されていましたが、来年に生かせることと思います。私も施術中、館内ガラス張りの為、女性の来場者の下半身に掛けるバスタオルがあればと思いました。

初めての開催でしたが、実行委員会の事前準備やお気遣いのおかげで、大きなトラブルも無く終了でき、感謝いたしております。

東鍼連岩手交流会に参加して

遠野支部 佐々木 忠久

10月29日(土)、30日(日)秋晴れの天候の下、風さえなければ最高の行楽日和。肌を刺す風に身を縮めるようにしながら、参加者一同平泉の歴史文化に改めてふれることができました。

平泉の駅で一同合流。専属のガイドさんの案内により、毛越寺では薬師如来を参拝し、浄

土庭園を散策。その後、バスで中尊寺へ移動しました。

月見坂ではその由来をガイドさんが教えてくれました。何でも月見坂の道の両端が杉の木で覆われ、その間から覗く月が見えることからその名が付けられたそうです。

坂を登り切ったところで金色堂を拝観。運良く秀衡の念持仏と言われている秘仏の一字金輪仏頂尊が御開帳されており、これまたお参りすることができたのです。

さらに、達谷窟に寄り、毘沙門天などを参拝し、初日の見学コースを無事終了しました。

当日は、土曜日ということもあり、団体・個人ともに見学者が多く、時より海外からの観光客とすれ違うなど世界遺産登録効果を目の当たりにしました。

初日の観光を終え、東山観光ホテルに移動後、今回のもう一つの目的、佐藤茂さんを講師に『解毒の鍼療法』について講演を頂きました。スズメバチに刺された時の解毒を鍼で行うという症例でした。基本的には、アナフィラキシーショックを考慮すると、直接近くの病院を紹介するべきであり、抗体反応を考慮するべきであると前置きをした上で、実技を交えての講演に皆真剣に取り組み、有意義な時間でありました。

一日の汗を流した後は親睦会。カラオケありの、あの人がこんな格好をと驚くようなパフォーマンスが飛び出すなど、楽しい時間は2次会と言うべきか3次会と言うべきか、夜の更けるのも忘れてお楽しみの方もいらっしゃいました。

二日目は、昨夜のアルコールの残りさえ感じさせぬ元気な姿で朝食を済ませ、一路「狛鼻溪」の往復90分余りの舟下りを満喫。砂鉄川が石灰岩を侵食してできたといわれる約2キロメートルの渓谷。川岸には高さ100メートルを超す断崖絶壁がそびえ、季節柄、先端は紅葉。中腹に至るまでは緑一色というコントラストに目が釘付けになり、船頭が棹一本で巧みに舟を操りながらの「狛鼻追分」は岩肌に響き渡るようで爽快感がありました。

こうして、二日間に亘る東鍼連岩手交流会に初めて参加させて頂きましたが、私を含め参加者一同、日頃の仕事から解放され、リフレッシュし、旅の疲れも多少ありましたが、思い出に残る二日間となりました。

最後に、会長を中心に今回の平泉観光を企画された関係者のご努力のたまものが、こうして無事何事もなく成功裏に終えることができたものと参加者の一人として感謝致します。

来年は宮城県の鳴子温泉だということです。今年参加できなかった方も一緒に参加しましょう。

希望郷いわて国体コンディショニンググループボランティア報告—1

盛岡支部 米澤 真奈美

私は23日の雫石と24日の盛岡に参加し、初めてアーチェリーとグランドソフトボールという競技にふれさせて頂きました。

どちらも、施術を受けに来る方が少なかったのも、あまりお役に立てなかったのは残念ですが、とてもいい経験をさせて頂きありがとうございました。私の担当した部分について、感じたことをお伝えさせていただきます。

両日とも天気恵まれて、すがすがしい秋晴れでしたが、屋外の開け放しの仮設テントだったので、ストーブを焚いても、施術をせず待っている時は防寒着が必要な寒さでした。外で競技している選手の方たちも大変だったと思います。

23日のアーチェリーについては、選手全員が横並びで、午前1時間半、一斉に競技を行い、

競技の性質上、周りも集中して静かにしておりました。コンディショニングルームに来られるのは、開会式前、昼食時間、閉会式前のわずかな時間だけでしたので、当日は人員配置を減らして、前日の練習日にコンディショニングルームを設置した方が、お役に立てたのではないかと思います。

私は、開会式前に 2 人施術を受けに来たうちの一人を担当しました。膝が痛く病院に通っているが良くならないので、帰ったら手術を受けることになっているということでしたが、一つ目のツボに、てい鍼で氣の流れを整えただけで「楽になっていく」と言ってくれるほど敏感な方でした。地元へ帰ったら鍼灸を受診することに興味をもっていました。

選手とは施術中の何分かの出会いでしたが、良い結果になってくれたらと気にかかり、試合が終わった後に成績表を見に行くと、元々強い選手だったようで優勝していたので嬉しく思いました。

24 日のグランドソフトボールについては、決勝戦と 3 位決定戦が同時に進められており、それ以外のチームはいませんでしたので、選手は施術に来る時間はほとんどなく、施術に来たのはスタッフの方たちでした。

この日は受付担当でしたので、目の前で試合をしている 3 位になった岩手チームの応援を楽しませて頂きました。全盲の方が壘に全力で走る姿には感動しました。

最後に、気が付いたことをいくつか書きます。後方付けをしてみて、備えあれば患いなしとか、おもてなしの気持ちで準備して下さったのですが、文房具や雑貨などの物品が沢山残り、他の各部署でも同じように用意されていたであろうと想像すると、県でも今後の保管場所も大変だろうし、税金や寄付など色々な方のお金を使っているのだろうし、半分以下の量でも十分だったように思います。そのあたりも次の開催県職員に伝えたいと思いました。

他県からの視察の県職員の方と柔整の方とお話しする機会がありましたが、どちらの方も平日は特に施術者を集めるのは大変ではないかと心配していました。その時はお伝えできませんでしたが、終わってみると競技の性質や進行の仕方から、選手が施術を受けに来られる時間を吟味すれば、配置を工夫する余地はあるように感じました。

私の参加した現場では、県市町村職員やボランティアの方たちのみなさんが、それぞれの役割の中で穏やかな雰囲気動いていて、気持ちの良い大会だったと感じました。

同じ大会にかかわることはもうないかと思いますが、何かの機会に、この経験を活かしていければと思います。

希望郷いわて国体コンディショニングルームボランティア報告—2

奥州支部 千葉 芳夫

希望郷いわて大会コンディショニングボランティアに初めて参加させていただきました。とても勉強になることが多く、実りあるものでした。

施術しながらの短い時間でしたが、選手やコーチ、監督さんから色々な話を聞きましたのでいくつか紹介いたします。

まず、マッサージを受けたことがありますか？と問いかけると、多くの方が初めてとのことでした。受けたことがあるという人に、どういうところでしていただきましたか？とお聞きすると、接骨院・整体・という答え。もしくは、病院とのことでした。これは、まだまだマッサージの宣伝が足りないことを実感しました。今回受けてみてとても良かったので、こ

れからも機会を見て受けてみたいという方もおりました。それを裏付けるように、後日、リピーターの方が数人いらっしゃいました。

次に、岩手のことについてお聞きしたところ、観光は時間がないので残念ながら行けそうにないとのことでした。特にもすぐそこに世界遺産の中尊寺があるのに悔しいと、しみじみ話しておられる方もいました。私もせっかくの機会なのにもったいないと思いました。

また、岩手の食べ物について尋ねると、皆さんあまり知らないようでしたので、おいしい麺類の情報を提供しました。宿泊施設によって食事の格差も多少あったように私には感じられました。特に南の県の方々にはあまり認知されていないようでした。

最後に施術を受ける方々の態度がとても礼儀正しく、こちらも襟を正して対応させていただきました。「広げよう感動、伝えよう感謝」をスローガンに開催された大会でしたが、私自身がたくさんの感動をいただき感謝しています。

希望郷いわて大会の開会式を観覧して

会長 佐々木 実

その日、10月22日は、会場の北上市でも初霜を観測する寒い朝でした。第16回全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会開会式に県より特別招待を受けた（コンディショニングルーム担当団体の長ということで）私は開会式が行われる北上市の陸上競技場に8時半頃行きました。

ところが、皇太子殿下出席の関係で手荷物検査が厳しく、2度の鞆内チェック、飛行場にあるような金属探知機を通り抜けて会場に入れたのが30分後。既に開会式前のセレモニーは始まっており、県内の各支援学校の生徒さんが宮沢賢治の「雨にも負けず」を朗読したり、風の又三郎に扮して踊る演技が始まっていました。

地元鬼剣舞、盛岡さんさ踊りが披露され皇太子殿下の臨席を仰ぎ、10時、いよいよ開会宣言。全国47都道府県と20の政令都市から3500人の選手と1500人の役員団の入場行進が始まりました。スタンド正面には地元の小学生たちが大勢いて、選手役員が通るたびに旗を振り大きな声で「頑張っ！」と声援を送っていました。ほぼ満員になったスタンドからも温かい拍手。車椅子の選手が帽子を振り、視覚障害者の選手が繋いだ反対側の手を振っています。感動的なシーンでした。

炬火の点火に続いて選手宣誓が行われ、岩手の選手団の中から聾啞者の女性と肢体不自由者の男性との息の合った晴れやかな声が晴天の秋空に響き渡りました。

46年前の岩手障害者国体ではこの時に一斉に鳩が放たれたのですが、今回はそれはありませんでした。

開会式は11時28分、予定通りぴたりと終了し、その後、松本哲也さんと福田こうへいさんの歌の披露があり、のびやかな二人の声が空高く吸われて行きました。全体の終了は11時50分ぴったりでした。

私は今回で3度障害者国体を体験しました。昭和45年、岩手で1度目の障害者国体の時、盲学校の中学2年生だった私は、選手宣誓後の鳩飛ばしの役で参加しました（ただ鳥かごの扉を開けるだけですけど）。

その後、昭和52年に青森障害者国体（あすなろ国体）に陸上選手として参加。そして今回の選手コンディショニングルーム担当と3回3様の障害者国体参加です。が、年を取ったせ

いか今回の大会が一番印象に残った感じです。

次回開催が今回のように46年後だったら、もう私はこの世にはいないでしょう。でも、この感動を、岩手県師会挙げてコンディショニングルーム担当に取り組んだ姿を、のちの会員にしっかりと伝え残すことが私の役目でもあると思いながら帰途に就きました。

東鍼連青森大会臨床体験発表原稿

「片頭痛の鍼治療」

岩手県師会 佐々木 実

【目的】

片頭痛は血管の拡張発作により周囲の神経が刺激され、頭の片側、あるいは両こめかみから目の周辺にかけてズキンズキンという痛みが発生する疾患である。

これまで50例ほど取り扱ってきたので、その経験を話させていただきます。

【方法】

治療する前に、1. 純粹に片頭痛だけのものか、2. 緊張性頭痛も混在しているかを確認する。見分けを間違えて治療すると症状悪化を招きかねない。

判断基準として、1. 肩や首が凝っていないか、2. 頭を触ってみた感触（全体のむくみと部分的な緊張の違い）→グレープフルーツとやや空気の抜けた軟式テニスボールの感触

治療は寸3の2番を用い、合谷に刺鍼し、軽い雀啄（痛み止め）。

頭部の各経穴への刺鍼（血管拡張を鎮める）。

治療点 天柱、玉枕、曲差（異常膀胱経）

五処、脳空、風池、肩井（以上胆経）

百会（督脈経）、肩外兪、肩中兪（以上小腸経）

【結果】

刺鍼後直ぐ鎮痛作用が発揮される人と、ある程度の時間のかかる人とがある。

【考察】

片頭痛は鍼治療の適応症の最たるものといえる。服薬で痛みは止まってもあたまの膨脹感が残るといふ人にも鍼は有効。

片頭痛が起きたら、頭部を冷却したり、ハチマキで頭を縛るなどして来院するように指導。

【結語】

片頭痛は高齢になると自然に起こらなくなっていく（動脈硬化）。

現在片頭痛に関しては効果的な薬が作り出されている。が、鎮痛後の頭の膨脹間や頸肩部の違和感を取り除くのは鍼が一番効果的であると考えます。

解毒の鍼療法

（平成28年10月29日：東鍼連岩手交流会臨床研修発表内容）

岩手県鍼灸マッサージ師会組織強化部長 佐藤 茂

A 解毒（げどく、detox ification）

解毒とは

- ①毒に侵された状態を治すこと。また、その影響を抑える事。
 - ②代謝による異物の分解、薬物代謝のこと。
 - ③健康法の一つ、デトックスの事を指す。
- ※ここでは①がテーマとなる。

B 解毒の配穴

築賓、肩グウ（皮膚症状が無ければ兪府の方が良いか）

これは長野式の解毒処置と呼ばれている配穴である。

またの名を皮膚科処置ともいい皮膚症状に用いてもよい。

老人性の痒みなどにも皮内鍼などを使用すると痒みの軽減にも効果がある。

C 症 例 スズメバチに刺された女性（77歳）

平成24年、スズメバチに右拇指を刺されたと来院。このときスズメバチに刺されたのは2回目の経験であり、スズメバチに2回目に刺されると死ぬと聞いたことから恐怖心と激痛のため非常に不安そうな顔をして来院。

正直、当院ではなく別の病院に行ってもらいたかったが、即時型であるアラフィラキシーショックの症状は見られないので、これならやれと判断。

（起きるなら当院にたどり着く前にショック症状を起こしているはずと考えたからである。しかし、後で調べてみると30分も経ってからショック症状を起こすこともあると判明、即時型の言葉に数分程度でショックを起こすものと思っていた。知っていたら断っていたかもしれない）

もし、ショック症状が出現したら救急車を呼ぶつもりで鍼治療をする。

配穴は築賓、兪府、それと刺されて腫れている部位を囲むように何本か鍼を使用し1時間くらい置鍼。置鍼中、ショック症状は出現せず、腫れもきれいに消失、痛みも治まった。

それから数日後、自分でスズメバチの巣を駆除しようとし今度は頭部をスズメバチに刺され朝の5時前に再来院。叩き起される形で同様に処置。

頭部の激痛は消失し軽度の痒みに変化。刺された部位よりも下方に腫れが軽度に残存（重力により下方に水腫が持っていかれたためか？）した程度にまで回復。意識清明にしてアナフィラキシーショック出現せず。

いい加減、専門の業者に巣の駆除を依頼するようキツメに指導した。

それから4年後、自宅の庭木の手入れをしていた際にスズメバチが巣を作っていたらしく、その蜂の巣に気が付かず接近し右上腕部と左前腕部に刺されたと訴え来院。

右のほうが左より深く刺されていることが視認された。

生命に関わる可能性もあり、即時型のアレルギーなので一刻も争うのだから余裕綽綽とするべきではないはずだが、汗かいていたのでシャワーを浴びて着替えてから来たよと不要な時間と気の使いよう。

おまけにスズメバチに刺されたら、ここに来ればいやとでも言わんばかりに4年前と違い表情は落ち着いていた（こちらの精神的プレッシャーも知らずに！）。

今回は4年前の経験からポイズンリムーバー（毒を吸引して出す器具）を確保していたので使用。

血液も混ざっているのだろう、透明なやや赤みを帯びた液体が排出された。

その後、鍼で築賓、肩グウ、兪府に置鍼し患部の腫れている部位を囲むように今回は鍼ではなくチクチク刺激を加える。3周したところで腫れが目に見えて消退、それと同時に痛みも消失。

10分後、右上腕に腫れと痛みが蘇って来たようだった。

初めはぼんやり広範囲に腫れていたが、今度は小さな範囲で腫れてきて、腫れの部位と腫れない部位がハッキリと境界が分かる。チクチク刺激したところ腫れと痛みが瞬く間に消失。ちなみに左前腕はもはやどこが刺されたのか分からないほどにまで回復していた。

その後、時折ズキツとした痛みを右に感じるが腫れはもう起こらなかった。

その後しばらく様子を見ていたが大丈夫だろうと判断し、気を付けるよう注意し帰宅させた。今回は毒を抜いたからだろう1時間もかからなかった。他にも安心感を持って来院しており、それもプラスに働いたかもしれない。

20分くらいで症状はほぼ無くなったがショック症状が出ないか観察のためトータル40分くらい当院にいてもらった。

この様な患者が来院したからといって同様の処置をすれば同様の結果が出るとは思わないで欲しい。この患者にはスズメバチの毒に抗体ができていなかったから無事に済んだだけなのかもしれない。

やはり気安く手を出すには危険だと思われる。しかしながら例えば山など人里はなれた場所で、医療機関に直ちに送れないような状況で同様の事態が起きたなら試す価値はあるのではないだろうか？

◎疲労回復処置

解毒処置は日常の臨床で用いることはあまりないと思われる。

そこで副腎処置、別名で疲労回復処置をお土産に明日からの臨床に役立てて頂きたい。効能は極めて幅広い。

配 穴

照海（太谿、復溜、築賓）、兪府の左右4穴を置鍼20～30分。

なお兪府穴は気胸のリスクがあるので当然、直刺不可。

復溜穴は照海穴より痛みを感じにくいので鍼が苦手の人に使えば比較的受け入れてもらいやすいだろう。

太谿穴は咽喉に症状がある人に、築賓穴は今回の解毒以外では肥満症の人に用いるとされるが、臨床的には疑問を感じさせる。

照海穴が一番効果的に感じられるのが何れも自分で試してみて確認すること。

一関支部創立100周年記念式典報告

支部長 館下 正則

一関支部創立100周年記念式典が11月27日（日）11時からホテルサンルート一関を会場に行われました。会員7名に加え、佐々木実県師会会長、奥州支部長の千田節雄氏、顧問の神崎浩之県議を来賓としてお迎えしました。さらに普段奉仕活動へ協力されている一関視覚障害者福祉協会会員3名と、付添い2名を含め総勢15名という少ない人数ではありましたが、

和やかな祝賀会となりました。

さて、式典では会の発展のために長年に渡って貢献した 6 名の会員に感謝状を授与し、さらに佐々木会長に「全鍼師会の中央情勢について」の講演をいただきました。祝賀会では師会の歩み等の思い出話に花が咲きました。

終りに、一関支部には若い会員は少ないのですが、県内では奥州支部に次ぐ歴史ある支部ですので、今後ますます発展できればと願っています。会員各位の協力の下無事式典を終えることができ胸をなでおろしています。

各支部報告

二戸支部

広報担当 古舘 吉弘

平成 29 年も早や二ヶ月が過ぎようとしています。今年はどんな年になるのでしょうか？アメリカではトランプが大統領になり、いろいろと暴れまわっていますが、これから世界が一体どこに向かって進んでいくのかわかりませんね。

さて、今年度二戸支部には野月平優子さんが入会され、活発に活動してくれました。しかしながら、会員の体調不良や介護などで、例年のような活動はできませんでした。特にわくわく荘へのボランティアができなかったことはとても残念なことでした。少人数ではありますが、皆で力を合わせて頑張りますので応援してください。

活動報告

4 月 9 日 定時総会

8 月 6 日 県民セミナー 野月平優子氏参加

10 月 22 日～24 日 全国身体障害者スポーツ大会コンディショニングルームボランティア
アーチェリー会場 齋藤真一郎氏参加

盛岡支部

支部長 佐藤 明

皆さまこんにちは。今年の正月は約 70 年ぶりに雪が全然ない正月でした。その後は平年並みに雪を見ることになり、季節感を感じる事が出来ました。

まず、昨年、盛岡支部は、盛岡鍼灸マッサージ師会から数えて設立 75 周年を迎えました。その記念事業として全支部会員へ記念品を配布しました。

次に、新しい活動として、盛岡支部情報のメール配信を始めました。支部活動のお知らせや生涯研修の参加募集など 20 回送信しました。同様に、新たに支部独自の勉強会を 4 回実施しました。

また、盛岡市の委託事業である、健康づくりマッサージ等指導教室を年間 86 回行いました。集団指導となる健康講話や体操・運動指導を行いマッサージ施術をするものです。利用者の中には一年間続けている方が多く、健康維持や日常動作機能の改善もみられ、その効果を実

感しています。

会員動向ですが、入会者は臼井慶太さん、菊池彩香さん、金田真人さん、川口美登里さんの4名が新しく入会されました。退会者は木村キヌ子さん、渡辺茂樹さん、山口浩道さんの3名で、3月末時点で59名の会員が所属しています。

続いて活動日誌です。

4月10日 定例総会開催。会員22名、付添1名参加。

8月7日 県師会主催鍼灸マッサージ県民公開セミナー2016に、会員21名、付添1名参加。

10月22日～24日 全国障害者スポーツ大会コンディショニングルームボランティアに会員延べ12名と付添1名参加。

10月30日 矢巾町健康福祉まつりマッサージコーナーにボランティア参加。会員7名で73名施術。

11月20日 西厨川老人福祉センターマッサージボランティア参加。6名で14名施術。

12月11日 忘年会並びに75周年祝賀会開催。会員21名参加。

その他に4回の役員会、健康づくりマッサージ等指導教室指導員のミーティングを3回、県師会主催の生涯研修会や新イベントの県民公開セミナーに多くの会員が参加しました。

さらに、釜石市小川地区マッサージボランティアや7月初めの東鍼連青森大会、10月末の東鍼連岩手交流会に参加しました。

会員の団結力と頑張りで支部がさらにパワーアップできるよう、これからも活動を進めて行きたいと思います。

奥州支部

支部長 千田 節雄

奥州支部でのニュースといえば、小澤信男さんの厚生労働大臣表彰受賞でした。これまでの実績が認められたもので、会員一同の喜びもひとしおであり、1月の新年会の席でお祝いをさせていただきました。本当におめでとうございます。今後も健康に注意をし、大いに活躍していただきたいと思います。

奥州支部の主な行事

4月10日 午後12時より「翠明荘」において定期総会開催。役員改選により、副会長に今野奈保子さん（会計兼務）が、会計監査に中村龍哉さんが選ばれ、これまで副会長であった小野田サヨ子さんが会計・会計監査の補佐役になりました。

6月19日 第1回役員会

8月7日 アイーナでの「県民公開セミナー」に3名参加。

8月28日 水沢区ボランティアフェスティバルのマッサージコーナーに7名参加し、31名を施術しました。

10月23日～24日 希望郷いわて大会卓球会場のコンディショニングルームに5名参加。

12月11日 第2回役員会

1月22日 視福協合同での新年会開催

3月5日 第3回役員会

一関支部

支部長 舘下 正則

今年度、県師会は新たな事業を展開し、大きく進化した年となりました。
平成 29 年度も前年度を検証しつつ、会員各位が飛躍し、繁栄が訪れる年になるよう願っています。

活動報告

- 4 月 10 日 定期総会（福祉センター）
 - 5 月 15 日 第 1 回慰問治療（関生園、ケアサポート、福光園）9 名で 40 名施術。
 - 7 月 10 日 第 2 回慰問治療（関生園、福光園）7 名で 32 名施術。
 - 9 月 4 日 臨時総会（福祉センター）
 - 9 月 18 日 第 38 回一関国際ハーフマラソンマッサージボランティア。県師会 2 名、一関支部 7 名で 75 名施術。
 - 11 月 17 日 一関支部創立 100 周年記念式典（ホテルサンルート一関）
 - 平成 29 年 1 月 15 日 新年会
- その他、県師会の事業、研修会への参加、東鍼連への参加を呼びかけ協力しています。

大船渡支部

支部長 古水 健吾

- 4 月 3 日 28 年度総会 大船渡温泉
 - 7 月 30 日 役員会
 - 10 月 16 日 マッサージ奉仕 富岡荘と祥風苑
 - 12 月 11 日 忘年会 中村屋
 - 2 月 25 日 役員会
- その他、県師会の総会、研修会などへ参加しました。
28 年度は残念ながら例年のような活動はできませんでした。
29 年度は県総会始め、東鍼連岩手大会、県民公開セミナー、その他の研修会などに積極的に参加したいと思っています。
また、震災から 6 年が経ち大船渡や陸前高田市内も大分復興の形が見えてきました。
支部としても、なにか形に残るような活動をしていけたらと思っています。

遠野支部

佐々木 きみ子

遠野支部は、例年通り釜石小川地区のボランティアに協力しました。
その他、遠距離ですが、研修会や東鍼連へも参加しました。

編集後記

広報部長 松下 優子

今年度も、会長初め会員の協力をいただきながらやっと「東洋療法いわて」を発行することができ胸を撫でおろしています。28年度は当会も様々な事業に挑み、あわただしく過ぎた年になりましたが、その経験を活かし今年はいっしょに取り組む、また一歩前進できるようにがんばりましょう。

今号は役員以外の方々にも執筆をお願いし、快く引き受けてくださいました。この場をお借りして感謝申し上げます。

奥付

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
平成29年度 会報「東洋療法いわて」第49号
平成29年5月1日発行

発行人 会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057

編集責任 広報部長 松下 優子
〒020-0667 滝沢市鶴飼向新田7番地-227
電話 019-687-2405

事務所（事務局）会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057

ホームページ <http://iwateken-harikyumasikai.jimdo.com/>
郵便振替 岩手県鍼灸マッサージ師会 02360-9-19833

印刷所 有限会社 浜印刷
〒020-0667 滝沢市鶴飼洞畑56-29
電話 019-654-3569